

横浜市は 上郷開発やめて緑地保全を

「営利目的の開発計画にストップ！環境・緑・生態系を守れ」
この圧倒的多数の声をこれからも市長に届けよう！

港南台9丁目のマンション付近から見た上郷猿田地区。
左端の舞岡上郷線道路より右側の緑地のほとんどを開発しようとしています。



上郷深田遺跡

都市計画道路
舞岡上郷線

上郷猿田地区は、
横浜市が公費投入も含め、緑の全面保全に責任を負うべきです。

■横浜市は温暖化防止に貢献しよう

上郷瀬上の自然を考える会 代表 山仲 章介

パリでは世界中の国が集まってCOP21が開かれました。この会議は、地球温暖化ガスの削減に向けて各国の削減目標を決める歴史的なものとなりました。これまで消極的だったアメリカと中国が前向きに方針転換したことが、会議全体を大きく動かししました。

しかし、恥ずかしくもみっともなくも、我が横浜は上郷のみどりを破壊して必要のない市街地を作り、地球温暖化ガスを更に排出しようとしています。世界の趨勢に反する行動は行うべきではありません。

■一緒に緑地を守りましょう！

上郷開発から緑地を守る署名の会 世話人 皆川 昭一

1990年前後、バブル崩壊後、開発が抑制されているにも拘わらず、東急建設は「市街化調整区域」である瀬上地区の田んぼや畑30数㌥の土地取得を強行し、住宅や商業施設をつくる計画を出しました。しかし、20数年経過した現在も、「調整区域」という重い事実がネックとなって開発計画は実行できませんでした。

そこで横浜市は、その「調整区域」を開発可能な「市街化区域」に変更する態度へと変えたのです。その結果が今回の開発計画素案(案)です。

上郷開発から緑地を守るためにがんばりましょう。



「上郷・瀬上の自然を守る会」「上郷開発から緑地を守る署名の会」「ホテルのふるさと瀬上沢基金」の3団体は、「上郷・瀬上の自然を守る請願署名」10万9,611筆を横浜市長と市議会議長宛に提出しました。
=2014年2月7日、横浜市役所。

横浜市は、2014年1月に東急建設から提出された栄区上郷猿田地区開発計画のほんの一部を修正し、「都市計画市素案(案)」を発表しました。
案では、舞岡上郷線西側のほとんどの緑地部分を含む約12・5㌥を住宅や商業用地等にする改変計画です。東急建設の開発計画に対して、「緑・環境を守れ」と11万人を超える反対署名が市に提出されています。

東急案ほぼまるのみの市計画案

貴重な動植物が息づき、夏にはホタルが飛び交う緑の宝庫、上郷・瀬上の森。幾度となく開発計画が持ち上がりましたが、緑を守りたいという住民の声に押され、実現には至っていません。ところが横浜市は、この地域を開発する計画を発表。上郷の緑に危機が迫っています。

市民の運動で守られてきた上郷の緑が…

改めて説明会と意見募集を

日本共産党横浜市議員団は、改めてわかりやすい説明会を行い、12月14日に締め切った「素案(案)」への意見募集を引き続き行うよう求めています。



都市計画市素案(案)の説明会で説明する横浜市担当者
=2015年11月30日、栄公会堂。

同時に、長年にわたってこの地を守ってきた地権者の方々にとっては、土地の活用についての先行き不安があるのは当然です。将来の見通しについては、東急建設と横浜市が責任を負う必要があります。

形式的なアライバづくりの説明会

昨年11月30日に「計画素案(案)」の説明会が行われましたが、関係地域住民への事前周知は全く不十分なものでした。

また、説明会での説明に対して、「わずか30分間はひどい」「早口の専門用語で話をされても、何を説明されているのかわからない」「意見を言う時間がなかった」等の苦情が相次ぎました。今回の説明会は、極めて形式的、アライバづくりといえます。

